

徳之島および沖縄島から得られたハタ科魚類 ジャノメヌノサラシ *Grammistops ocellatus* Schultz, 1953

吉田朋弘¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ハタ科 Serranidae は日本近海に 34 属 136 種が分布する (岡本ほか, 2012; Endo and Kenmotsu, 2013; 瀬能, 2013, 2014). そのうち, ジャノメヌノサラシ属 *Grammistops* はジャノメヌノサラシ *G. ocellatus* Schultz, 1953 のみで構成されており, 国内では奄美大島と瀬底島からのみ記録されている (瀬能, 2013; 萩原, 2015).

2014 年 7 月 9 日に沖縄島の中城村浜漁港, 同年 10 月 1 日に徳之島の西阿木名漁港沖において, ジャノメヌノサラシが各 1 個体採集された. 本標本は徳之島と沖縄島における本種の標本に基づく初めての記録ならびに国内 3 例目となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法はおおむね Randall and Baldwin (1997) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行った. ジャノメヌノサラシの記載は KAUM-I. 65901 に基づく. また, 本種の生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された徳之島産の 1 標本 (KAUM-I. 65901) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, 固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報

告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

結果と考察

Grammistops ocellatus Schultz, 1953

ジャノメヌノサラシ (Figs. 1-2)

標本 2 個体: 体長 22.8-81.0+ mm. KAUM-I. 65271, 体長 81.0+ mm, 沖縄県中頭郡中城村浜漁港 (台風による打ち上げ個体), 2014 年 7 月 9 日, 桜井 雄; KAUM-I. 65901, 体長 22.8 mm, 鹿児島県大島郡天城町西阿木名西阿木名漁港沖 (27°45'33"N, 128°54'22"E), タモ網, 水深 16 m, 2014 年 10 月 1 日, 田代郷国.

記載 背鰭棘数 7; 背鰭軟条数 12; 臀鰭棘数 3; 臀鰭軟条数 8; 胸鰭軟条数 14; 腹鰭棘数 1; 腹鰭軟条数 5; 側線有孔鱗数 65; 総鰓耙数 5 + 12 = 17; 櫛歯状に発達した鰓耙数 2 + 9 = 11.

体各部測定値の標準体長に対する割合 (%): 体高 26.8; 体幅 14.5; 頭長 39.9; 眼径 9.2; 吻長 7.0; 両眼間隔 (骨質部で測定) 3.5; 上顎長 17.1; 尾柄長 11.4; 尾柄高 15.4; 背鰭前長 43.0; 背鰭第 1 棘条長 7.9; 背鰭第 2 棘条長 11.0; 背鰭第 3 棘条長 10.1; 背鰭第 4 棘条長 9.2; 背鰭最長軟条長 20.2; 臀鰭前長 65.8; 臀鰭第 1 棘条長 3.9; 臀鰭第 2 棘条長 7.9; 臀鰭第 3 棘条長 4.8; 臀鰭最長軟条長 20.6; 尾鰭長 29.4; 胸鰭長 26.8; 腹鰭前長 36.4; 腹鰭棘条長 11.8; 腹鰭最長軟条長 19.3.

体は細長く, やや側扁する. 吻端から背鰭起部にかけての背面は緩やかに曲がる. 口は大きく斜

Yoshida, T. and H. Motomura. 2015. Records of *Grammistops ocellatus* Schultz, 1953 from Tokuno-shima and Okinawa-jima islands in the Ryukyu Islands, Japan. *Nature of Kagoshima* 41: 53-55.

✉ TY: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).



Fig. 1. Fresh specimen of *Grammistops ocellatus*. KAUM-I. 65901, 22.8 mm standard length, Amagi, Tokuno-shima island, Kagoshima, southern Japan.



Fig. 2. Fresh specimen of *Grammistops ocellatus*. KAUM-I. 65271, 81.0+ mm standard length, Nakagusuku, Okinawa-jima island, Okinawa, southern Japan.

位で、口裂はわずかに斜行し、主上顎骨後縁は眼後縁に達しない。瞳孔は洋梨型で前方に尖る。両顎は円錐歯が歯帯を形成し、歯帯の幅は前方が広く、後方は狭い。鋤骨と口蓋骨にも同様に円錐歯の歯帯がある。前鼻孔は短い管を有し、その先端が開孔する。後鼻孔は孔状で、眼前縁近くに開孔する。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。前鰓蓋骨後縁に2本の太い棘がある。主鰓蓋骨に3本の棘を有する。側線は1本で、鰓蓋上方から背鰭第3棘基底直下にかけて曲線をなすように上昇し、背鰭第10軟条基底部下にかけて緩やかに下降する。背鰭起部は第9側線鱗直上に位置する。胸鰭始部は背鰭第2棘基底直下に位置する。胸鰭先端は背鰭第6棘基底直下に位置する。臀鰭起部は背鰭第1軟条基底直下に位置する。腹鰭は短く、その先端は背鰭第5棘基底直下に位置する。尾鰭は円形。

色彩 生鮮時の色彩 — 体側上部は一樣に暗い

鶯色。体側下部は緑がかった暗灰色。鰓蓋上縁に黒色斑がある。各鰭の棘および軟条は暗い鶯色で、鰭膜は透明である。頭部は赤みを帯びた鶯色で、体側後半は一樣に暗い鶯色を呈する。主鰓蓋骨後縁に1黒色斑を有し、その外縁は白色で縁取られる。

備考 徳之島と沖縄島から採集された両標本は、主鰓蓋骨上に1黒色斑があること、側線が1本であること、下顎に皮弁がないことから、瀬能(2013)と萩原(2015)が記載したジャノメヌノサラシ *Grammistops ocellatus* の標徴とよく一致した。本種は通常1個の黒色斑が主鰓蓋骨上にあるが、稀に3個もつ個体が確認されている(Randall, 2005)。主鰓蓋骨上の黒色斑数の変異は、同じハタ科ヤマトトゲメギス属のヤマトトゲメギス *Aporops bilinearis* Schultz, 1943でも確認されている(吉田・本村, 2014)。また、ジャノメヌノサラシは前鰓蓋骨後縁に0-1棘をもつとされている(Schultz, 1953; 萩原, 2015)が、徳之島から得られた小型標本(KAUM-I. 65901; Fig. 1)は左体側の前鰓蓋骨後縁に2本の棘(右体側では1本)を有することが確認された(本研究)。本種の前鰓蓋骨後縁における棘の変異(0-2)はRandall(2005)でも確認されている。本種の前鰓蓋骨後縁の棘数は、成長に伴い変化するものかどうかは追加標本の観察が必要である。

沖縄島産の個体(KAUM-I. 65271; Fig. 2)は、

台風によって浜に打ち上げられた状態で発見されたため、損傷が激しく計数・計測が困難な状態であったため、記載から除外した。計数可能な項目は以下の通り。胸鰭条数 14, 腹鰭条数 I, 5, 総鰭耙数 17, 発達した鰭耙数 11。これらの計数値は徳之島産の標本と同じ値を示した。

Grammistops ocellatus はビキニ環礁から得られた標本 1 個体に基づき新種記載された (Schultz, 1953)。本種はインド・西太平洋に広く分布する (Randall, 2005) が、国内からの標本に基づく記録は極めて少ない。Yoshino and Nishijima (1981) は *G. ocellatus* を沖縄県瀬底島から得られた 3 個体 (体長 76.1–98.0 mm) に基づき、日本初記録として報告するとともに、標準和名ジャノメノサラシを提唱した。その後、萩原 (2015) は鹿児島県奄美大島から得られた 2 個体 (体長 77.4–87.6 mm) に基づき、本種の北限更新記録を報告した。萩原 (2015) は「国内では瀬底島から採集された 1 個体のみ知られる」と表記したが、3 個体の誤りである。徳之島と沖縄島から採集されたジャノメノサラシは、両島からの標本に基づく初めての記録ならびに国内 3 例目 (6–7 個体目) の報告となる。また、本報告はこれまでの国内における本種の分布の空白域を埋めるものであり、本種が奄美大島から沖縄島にかけて連続的にすることを示唆する。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本の採集に際しては、沖縄環境調査株式会社の桜井雄氏、鹿児島大学大学院連合農学研究所の田代郷国氏ならびにマリンスーパース海夢居の鈴木竜爾氏に多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育

ネットワーク構築」, 総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費—地域貢献機能の充実—「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Endo, H. and K. Kenmotsu. 2013. *Suttonia coccinea*, a new graministin fish from Japan (Acanthopterygii: Serranidae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology), Supplement, 7: 11–18.
- 萩原清司. 2015. 奄美大島で採集されたジャノメノサラシ (スズキ目: ハタ科). 横須賀市博物館研究報告 (自然), (62): 27–30.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 岡本 誠・星野浩一・木暮陽一. 2012. 東シナ海から採集された日本初記録のハナダイ亜科魚類ミズホハナダイ (新称) *Plectranthias elongatus*. 魚類学雑誌, 59 (1): 55–60.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Randall, J. E. and C. C. Baldwin. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. Indo-Pacific Fishes, 26: 1–56, pl. 1.
- Schultz, L. P. and collaborators. 1953. Fishes of the Marshall and Marianas islands. Vol. 1. Families from Asymmetriontidae through Siganidae. Bulletin of the United States National Museum, 202: i–xxxii + 1–685.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 757–802, 1960–1971. 中坊敬次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏. 2014. フジナハナダイ. Pp. 160–161. 本村浩之・松浦啓一 (編). 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2014. 屋久島から得られたハタ科魚類ヤマトトゲメギス *Aporops bilinearis* の分類学的再検討. Nature of Kagoshima, 40: 35–41.
- Yoshino, T. and Nishijima, S. 1981. A list of fishes found around Sesoko Island, Okinawa. University of the Ryukyus Sesoko Marine Science Laboratory Technical Report, 8: 19–87.